

いじめをしない、させない、許さないための意識の醸成

<p>◆学習のねらい いじめをすることなく、誰とでも公平に接しようとする態度を育てる。</p>	<p>◆教育課程における位置付け 特別の教科 道徳（公正、公平、社会主義）</p> <p>◆主な使用教材 ・「同じ仲間だから」（文部科学省『わたしたちの道徳』小学校3・4年）</p>
--	---

展開

	学習活動（◇教師の発問）	○指導上の留意点
5分 導入	<p>1 いじめの捉え方を確認する。</p> <p>◇ この絵（『わたしたちの道徳』179ページ）を見て、気付いたことを発表しましょう。</p>	<p>○ 一人である女の子に焦点を当てて、いじめ問題に繋がる場面であることを確認させる。</p>
展開 35分	<p>2 教材「同じ仲間だから」を読み、話し合う。</p> <p>◇ ひろしの不満そうな言葉に、「そうねえ」と相槌を打ったとも子は、どんな気持ちですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【中心発問】ひろしの言葉にはっとしたとも子は、どんなことを考えましたか。</p> </div> <p>3 誰とでも公平に接することができた経験、そのとき、どんな気持ちで行動したかについて考え、ワークシートに書く。</p>	<p>○ 勝ちたいけれど、責めるのは間違っているというとも子の気持ちに共感させる。</p> <p>○ ひろしの言動の意味を理解した驚きと、勝つために光夫君を休ませるのは間違っているという気持ちを中心に考え、ペアで話し合わせる。</p> <p>○ みんなと話し合わせる内容ではないため、ワークシートに書かせる。</p>
5分 終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 公平に接することができたことや、接してくれたこと等を児童の実態に合わせて話す。</p>

授業を終えて

1組

このお話を読んで考えていく中で、自分が勝ちたいからといって、運動が得意ではない友達が指をけがしてただけで、その子に体育の見学をすすめるのはよくないことだという意見が出た。
また、そのような行動を見て見ぬふりをしたり、みんなと一緒にやってしまったりすることが、いじめにつながってしまうことに気付き、誰とでも公平に接しようとする意識を高めることができた。

2組

導入部分で、運動会にどんな気持ちで臨んでいるかを聞くと、「勝ちたい!」、「良いところをお家の人に見てもらいたい!」という意見が多かった。勝ちたいという気持ちと、怪我をした友達に対する気持ちとの間で子供たちに葛藤が生まれていた。怪我をした友達に見学をすすめるのはよくないのではないかという意見が出るなど、誰に対しても分け隔てなく、公平な態度で接することの大切さに気付くことができた。